



TITLE:

和歌山県白浜町沿岸に出現したヒロオウミヘビ *Laticauda laticaudata* (LINNAEUS)(コブラ科;ウミヘビ亜科)

AUTHOR(S):

久保田, 信; 田名瀬, 英朋; 岸田, 拓士

CITATION:

久保田, 信 ...[et al]. 和歌山県白浜町沿岸に出現したヒロオウミヘビ *Laticauda laticaudata* (LINNAEUS)(コブラ科;ウミヘビ亜科). くろしお 2010, 29: 12-13

ISSUE DATE:

2010-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/197416>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

くろしお, (29): 12-13, 2010

和歌山県白浜町沿岸に出現したヒロオウミヘビ *Laticauda laticaudata* (LINNAEUS) (コブラ科; ウミヘビ亜科)

Shin KUBOTA, Hidetomo TANASE and Takushi KISHIDA: An occurrence of the banded amphibious sea snake *Laticauda laticaudata* (Elapidae; Hydrophiinae) inshore at Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信*・田名瀬 英朋**・岸田 拓士***

わが国沿岸、特に南西諸島一帯にはウミヘビ類 9 種が知られている(鳥羽, 1996; 内山ほか, 2002)。和歌山県沿岸ではこれまでコブラ科 Elapidae ウミヘビ亜科 Hydrophiinae に属する 3 属 3 種のウミヘビ類、セグロウミヘビ *Pelamis platura* (LINNAEUS)、クロガシラウミヘビ *Hydrophis melanocephalus* GRAY、およびエラブウミヘビ *Laticauda semifasciata* (REINWARDT) が記録されているが(紀伊民報, 1966; 串本海中公園センター, 1999; YAMATO et al., 1996; MASUNAGA et al., 2005)、今回、これらとは明らかに異なる種に遭遇したので報告する。

2009年10月11日14時頃、和歌山県白浜町瀬戸漁港の岸壁に沿った海表面で、1 個体のヒロオウミヘビ *Laticauda laticaudata* と推察される種が海面上に小さな頭を出して呼吸しているところに久保田が偶然に遭遇した。その個体は体長 1 m 未満(90cm前後と目測)の小型個体で、胴部に明瞭な青・黒のストライプがあった。発見後、その個体は水深 3 m の海底に向かって潜水した。その後、岸壁に沿って遊泳し、数分後に遭遇地点から 7 m ほど離れた所にあるコンクリート岸壁からの突出部(水深 1 m)にからみつき、一時的に休止した。しかし、再びすぐに遊泳を開始し、一直線に南北方向に伸びる岸壁に沿って遊泳し、岸壁の先端部分に横付けされている 1 艘の小型漁船の下をくぐり(漁船の船長やダイバー数名も同時に目撃)、岸壁から直線距離で 2 m 離れた水深 3 m 地点で海面に浮上

した。再び頭を海水面より少しもたげて呼吸をしたので、その一瞬をデジタルカメラで撮影できた(図 1)。その後、また潜水し、終には姿を消した。以上のような観察はわずか 5 分程度であった。



図 1 和歌山県白浜町瀬戸漁港の海表面で呼吸中のヒロオウミヘビ *Laticauda laticaudata*.

Fig. 1 The banded amphibious sea snake, *Laticauda laticaudata*, breathing at the water surface in Seto harbor, Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan.

この個体がヒロオウミヘビであれば全長120 cmに達するが(鳥羽, 1996; 内山ほか, 2002)、本個体が成体か幼体なのか採取できなかったので不明である。しかしながら、本個体が明瞭な青・黒のストライプを示した特徴から(図1)、ストライプ模様が不明瞭なエラブウミヘビとは異なり、白・黒のストライプを示すクロガシラウミヘビとも違う種であり、背面の大半が黒色を呈する小型のセグロウミヘビとも明らかに異なり(鳥羽, 1996; 内山ほか, 2002)、前2種が通常の体長が1 mを超えることでも本個体は異なっていた。

2009年10月8日に紀伊半島沿岸に大型台風18号が再接近し、その風波で本個体が岸边に吹き寄せられ、今回の出現に至った可能性もある。本種は夜行性とされているが(内山ほか, 2002)、晴天日の真昼間に出現したのも吹き寄せを推察させるものである。その後、瀬戸漁港にはウミヘビ類が出現しないか毎日のように昼間に調査したが、2010年1月末まで遭遇することはなかった。また、同時期に実施した京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所の通称“北浜”でのほぼ毎日の漂着物調査でも出現しなかった。

ヒロオウミヘビは猛毒を持っているので取り扱いに注意が必要であるが、死亡に至るような咬まれ方はなかなか起こらないとされている。ヒロオウミヘビの分布北限は屋久島沿岸なので(鳥羽, 1996)、同定に誤りがなければ今回の観察は北限記録であり、紀伊半島沿岸域における初記録例となる。現に、2010年1月末、白浜町より数十km南方にあるすさみ町の漁港内で、全長60cmほどのヒロオウミヘビ1個体が生きたまま捕獲された(紀伊民報, 2010)。

謝辞

分類についてご教示下さり、原稿を査読して

下さった京都大学大学院理学研究科動物学教室教授、疋田 努博士に深謝致します。

引用文献

- 串本海中公園センター. 1999: セグロウミヘビ, マリンパビリオン, 28(8), 1.
- 紀伊民報. 1966: 熱帯からの珍客(セグロウミヘビ), 1月8日付記事.
- 紀伊民報, 2010: 猛毒のウミヘビ捕獲, 追記1月29日付記事.
- MASUNAGA, G., NAGAI, Y., TANASE, H. & OTA, H. 2005: A record of the black-headed sea snake, *Hydrophis melanocephalus* (Reptilia: Elapidae), from Wakayama Prefecture, Japan. *Current Herpetology*, 24(1), 37-41.
- 鳥羽通久. 1996: in 日本動物大百科 5. pp. 106-111, 平凡社, 東京.
- 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002: in 決定版日本の両生爬虫類. pp. 301-308, 平凡社, 東京.
- YAMATO, S., YUSA, Y. & TANASE, H. 1996: Distribution of two species of *Conchoderma* (Cirripedia: Thoracica) over the body of a snake, *Laticauda semifasciata* (REINWARDT), from the Kii Peninsula, southwestern Japan. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 37(3/6), 337-343.

* (〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)
京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所

** (〒649-2211 西牟婁郡白浜町676)

*** (〒606-8502 京都府京都市左京区北白川追分町)

京都大学大学院理学研究科動物学教室